

2023年度 第1回放送番組審議会 議事録

- 開催日時 2023年10月17日(火) 14時から15時10分
- 開催場所 三次市防災センター1階会議室
- 出席者委員 植田千佳穂・石田睦子・池上裕章・添田龍彦・前田茂・中宗久之・
中菊圭子・藤井皇治郎・竹本勇夫・東山裕徳・小木戸康志(敬称略)
- 欠席者委員 垣添博子(敬称略)
- 説明員 株式会社三次ケーブルビジョン
林代表取締役社長・甲斐常務取締役・猶崎制作グループリーダー
田丸企画制作グループリーダー・臺企画制作グループ員
伊達制作グループ員
- 1 開 会 出席者が揃ったため、事務局が開会を宣言する。
事務局
- 2 委員自己紹介 今年度、新たに審議委員になられた3名が自己紹介を行った。
- 3 社長挨拶 代表取締役社長が開会にあたっての挨拶を行った。
お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。
今回の審議会から新たに3名が委員になられ今後ともよろしくお願
いします。今回は県内のケーブルテレビ7局が7月から共同制作と
して始めた番組を審議していただきます。制作者の思いが番組を通
じて理解いただけるかなど、拙い意見をいただけたらと思います。
- 4 社側自己紹介 役員・社員が自己紹介を行った。
- 5 事務局 本日の出席状況について報告。本日は垣添委員の1名が所用のため
欠席。放送番組審議会委員12名中11名の出席を頂いており、放送
番組審議会規則第6条2項により有効に成立していることを報告す
る。

- 6 審 議
会長（司会） 審議に入る。皆様のご協力を頂きながら円滑な進行に努めてまいりたいと述べ、審議内容となる「特急あずさ 出発進行！～三次の鵜飼」について事務局からの説明を求める。
- 番組担当者 制作グループ員の番組ディレクター8月28日に放送した「特急あずさ 出発進行！～三次の鵜飼」について、配布資料に基づき企画意図や番組概要、演出などの説明を行う（事前に委員へDVDを送付）
- 会長（司会） 視聴いただいた番組の内容について、忌憚のない意見をお願いする。
- 委 員 水槽のシーンは迫力があつた。鵜がアユをくわえた後のシーンがあつて分かりやすかつた。三次の鵜飼の特徴がよく分かつた。撮影時間はどれくらいなのか。
- 社 側 リポーターが昼から夜9時まで撮影。一般客の撮影を2日間行つた。
- 委 員 14分の中で上手に編集出来ていた。鵜飼の歴史もよく説明されていた。漁としての鵜飼と観光としての鵜飼の紹介があつたが、観光面が弱く、船頭のコメントがあれば鵜飼の楽しみ方も伝わつたのではなからうか。今年の鵜飼は毎日ではなく、そのことがテロップ表示されていなかった。今後も番組は続くのか。
- 社 側 来年度も継続予定である。
- 委 員 鵜飼を知らない人に分かる「そもそも鵜飼とは？」の紹介があつてもよかつた。放送が8月末だったので鵜飼期間ぎりぎりの放送だつたのではないか。
- 委 員 鵜がアユを捕まえた後に残つた傷の部分も分かりやすかつた。
- 委 員 安全対策についてライフジャケットをつけて撮影してしたが、「安全に配慮して撮影しています」というようなテロップがあつてもよかつた。

委員 ピオーネ・もののけ・ワイナリーなど、他の観光を巡ることが出来る町という紹介がなかった。全国配信するのであればその部分も欲しかった。子どものインタビューはよかった。

委員 「観光」と「伝統」どっちつかずで、行ってみたいと思える内容であればよかった。捕ったアユは今でも料理として出すのか。

社側 三次観光推進機構によると、鵜飼で捕ったアユは譲り渡すそうで、料理として提供している店はない。

委員 鵜匠の体験をしていたが、鵜飼の特徴をもう少し PR 出来たらよかった。鵜飼の説明を織り込んで三次の観光 PR をもっと強くしたら、将来、鵜飼に関わる若い人が増えるのではないか。

委員 鵜が水中でどのようにアユを捕るのかわかり、また、鵜匠の手縄さばきが間近で見ることが出来てよかった。手縄の音、舟の音、鵜が水面を叩く音など雰囲気よかった。お客さんや観光推進機構の理事長のコメント、レポート、ナレーション、カメラ映像もよく、充実した番組だった。ただ、鵜匠の技術をもっと伝えて欲しかった。

副会長 三次の鵜飼の図鑑を見ているようだった。水槽のシーンを10回ぐらい見て、子どもや孫の世代に伝えなければと思った。リポーターが制服を着ていたがネクタイをきちんとしていたらもっときれいだったと思った。

会長 以前、学芸員として「鵜飼」に関わってきた。三次の鵜飼は特徴的なものと理解していたので、撮影の工夫もありうまくまとめられていた。伝統と観光があるが全国的にアピールするなら今の鵜飼を強調すればよかった。三次の魅力を伝える点ではよく、いい番組だった。

委員 取り上げが決まってからどのような過程で完成したのか。

社側 6月ごろから構成を考え、7月初旬に撮影を始めた。撮影開始までに共同制作するちゅピCOMと2回会議を行う。水中シーンについては観光推進機構にお願いした。向江田町の江の川漁協稚鮎中間育成場から水槽とアユを40匹用意。三次の紹介映像について、鵜飼以外

の特徴を撮影した4K映像がないので、三次全体を表現する4K作品を作るうえでの今後の課題である。

副会長 基準をみたしたカメラがあればピオネットでも4K作品を作ることができるのか。

社側 編集できる編集機があれば対応できる
撮影は出来るがデータ量が多く素材を保存することが難しい。

委員 県内7局で4Kカメラを持っている局があるのか。

社側 おそらく3局は持っている。

社長 今回の番組は地域の文化を伝えることがテーマで、共同制作はするが機材も限られ、他の取材とかぶらないようスケジュールを合わせ
る中で、制作しないといけない。ケーブルテレビ業界の4K放送の充
実を図っていききたい。

委員 今回は地域の伝統文化を取材したが、今後も続くのか。地域の歴史や
新しい文化などがテーマになることもあるのか。

社側 来年度も継続予定。今後の内容については人にスポットを当てるよ
うな歴史番組は難しく、三次に来てもらえるような内容になるの
ではないかと思う。

委員 時間を20分から30分でもいいのでは。

社側 紹介しきれない部分は時間を増やすことも出来るが、今後、他の局と
協議していきたい。

委員 番組をもう1回放送してもらい、子どもたちや市民に見てもらえば、
鵜飼に乗船する人が増えるのではと思う。

甲斐取締役 意見の中に鵜飼には「伝統」と「観光」の側面があるとあったが、今
回どっちで取り上げるのがよかったのかを考えながら、「伝統はこう
です」「観光はこうです」という紹介のやり方によって、三次の鵜飼

の見方がいろいろあることが分かってもらえたのではと思う。今日いただいた感想や意見を今後の番組づくりに活かしていきたいと思う。また、鶴飼には鶴匠の技術や船の技術あり、それを書物で伝承したり、語り継いで伝承したりするが、我々映像を扱う者としては映像として伝承することを意識して取り組まなければならないと思う、今後も貴重な意見をいただけたらと思う。

7 閉 会

事務局より審議会の議事録を HP に掲載し、翌日のニュース番組「情報ストリートあっちこっち三次」で放送することを伝え、次回の番組審議会は来年 2 月開催予定の旨を案内し閉会した。

以上